

この度、以下の通り財団法人JKAから平成24年度競輪公益資金による補助金の交付を受け、「平成24年度 障害をもつ人が幸せに暮らせる社会を作る 補助事業」を完了いたしました。

ここに事業完了のご報告を申し上げますとともに、財団法人JKAをはじめ、ご協力賜りました関係各位に謹んで感謝の意を表します。

1 事業名 平成24年度 障害をもつ人が幸せに暮らせる社会を作る 補助事業

2 総事業費 51,401,510円

3 補助金額 38,541,000円

4 完了日 平成25年2月27日

5 実施内容及び成果

(1) 実施内容

①第12回全国障害者スポーツ大会（岐阜県）

実施日：平成24年10月13日～15日

実施場所：岐阜県内9市町17会場

実施競技：個人競技6（陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク、ボウリング）

団体競技7（バスケットボール、車椅子バスケットボール、ソフトボール、フットベースボール、
グラウンドソフトボール、バレーボール、サッカー）

オープン競技3（脳性まひ7人制サッカー、
障害者ゴルフ、
車椅子ツインバスケットボール）

参加者：選手3,165名、

役員2,150名

合計5,315名



②第12回全国障害者スポーツ大会予選会

1) 聴覚障害者バレーボール競技

全国を6地区に分け平成24年5月12日～6月23日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

	(男子)	(女子)		
北海道・東北	青森県	—	6月23日	樹海体育館(秋田県)
関東	東京都	神奈川県	5月19日	ブルックスアリーナ宇都宮(栃木県)
北信越・東海	愛知県	静岡県	6月3日	山県市総合体育館(岐阜県)
近畿	大阪市	兵庫県	6月17日	西宮市中央体育館(兵庫県)
中国・四国	広島県	広島県	5月19日～20日	北島カンファドーム(徳島県)
九州	福岡市	沖縄県	5月12日	新日鐵文化体育センター(大分県)



2) 視覚障害者グランドソフトボール競技

全国を8地区に分け平成24年5月12日～6月3日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	札幌市	6月2日～3日	札幌市厚別区厚別南公園野球場(札幌市)
関東	山梨県	5月26日～27日	都立武蔵野中央公園(東京都)
北信越	新潟県	5月19日～20日	長野市立大豆島小学校グラウンド(長野県)
東海	三重県	5月19日～20日	三重県身体障害者総合福祉センター(三重県)
近畿	大阪市	5月26日～27日	大阪府立久宝寺緑地陸上競技場(大阪府)
中国	徳島県	5月12日～13日	県立春野総合運動公園(高知県)
四国	広島県	5月19日～20日	広島県立中央特別支援学校グラウンド(広島県)
九州	鹿児島県	5月26日～27日	水前寺江津湖公園(熊本県)



3) 車椅子バスケットボール競技

全国を7地区に分け平成24年5月12日～7月1日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	仙台市	6月30日～7月1日	盛岡市浜民運動公園（岩手県）
関東1次	選抜A	5月19日	豊島区立豊島体育館（東京都）
関東2次	東京都	5月26日～27日	小瀬スポーツ公園（山梨県）
北信越・東海	愛知県	6月3日	岐阜メモリアルセンターふれ愛ドーム（岐阜県）
近畿	神戸市	6月3日	大阪市舞洲障がい者スポーツセンター（大阪府）
中国・四国	高知県	5月26日～27日	鳴門県民体育館（徳島県）
九州	沖縄県	5月12日～13日	沖縄市体育館（沖縄県）



4) 知的障害者バスケットボール競技

全国を6地区に分け平成24年4月7日～7月1日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

	(男子)	(女子)	
北海道・東北	秋田県	秋田県	6月30日～7月1日 美香保体育館（北海道）
関東	横浜市	東京都	4月7日～8日 富士北麓公園（山梨県）
北信越・東海	愛知県	長野県	6月3日 ヒマヤアリーナ（岐阜県）

近畿	大阪市	堺市	6月10日	大阪市舞洲障がい者スポーツセンター（大阪市）
中国・四国	高知県	岡山県	6月16日～17日	高知県民体育館（高知県）
九州	福岡県	沖縄県	5月26日～27日	福岡市立城南体育館（福岡県）



5) 知的障害者バレーボール競技

全国を6地区に分け平成24年4月28日～6月3日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

	(男子)	(女子)		
北海道・東北	秋田県	秋田県	6月30日、7月1日	札幌市美香保体育館
関東	東京都	東京都	4月28日	ひたちなか市総合体育館（茨城県）
北信越・東海	新潟市	新潟市	6月3日	山県市総合体育館（岐阜県）
近畿	兵庫県	兵庫県	※予選会未実施	
中国・四国	山口県	山口県	4月29日	ふれあいジムかなぎ（島根県）
九州	北九州市	福岡県	6月3日	クーパープラザアリーナ棟体育館（福岡県）



6) 知的障害者サッカー競技

全国を6地区に分け平成24年5月6日～6月24日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	札幌市	6月23日～24日	宮城県サッカー場（宮城県）
--------	-----	-----------	---------------

関東	東京都	5月6日	府中郷土の森サッカー場（東京都）
北信越・東海	静岡県	6月3日	浅中公園総合グラウンド（岐阜県）
近畿	大阪府	6月17日	水口スポーツの森（滋賀県）
中国・四国	広島市	6月3日	灘崎町総合グラウンド（島根県）
九州	長崎県	6月3日	北九州市立本城陸上競技場（福岡県）



7) 知的障害者ソフトボール競技

全国を6地区に分け平成24年4月15日～6月10日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	宮城県	6月10日	モル沼公園野球場（北海道）
関東	東京都	4月15日	荒川総合運動公園（埼玉県）
北信越・東海	福井県	6月3日	羽島市運動公園（岐阜県）
近畿	京都市	6月3日	深北緑地球技広場（大阪府）
中国・四国	岡山市	6月2日～3日	東温市総合運動公園（愛媛県）
九州	長崎県	5月26日	雁の巣レクリエーションセンターソフトボール場（福岡県）



8) 知的障害者フットベースボール競技

全国を6地区に分け平成24年4月22日～6月10日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北

関東	東京都	4月22日	前橋市産業人スポーツセンター（群馬県）
北信越・東海	静岡県	6月3日	しんせい運動広場グラウンド（岐阜県）
近畿	神戸市	6月10日	奈良県心身障害者福祉センター（奈良県）
中国・四国	山口県	5月27日	コ・コウエストスポーツパーク（鳥取県）
九州	熊本県	5月13日	国立障害者リハビリテーションセンター（福岡県）



9) 精神障害者バレーボール競技

全国を6地区に分け平成24年4月14日～6月3日の間に大会を実施し、次の通り出場チームを決定した。

北海道・東北	青森県	6月16日	(山形県)
関東	横浜市	4月28日	ひたちなか市総合体育館（茨城県）
北信越・東海	浜松市	6月2日～3日	安八町総合体育館（岐阜県）
近畿	京都市	6月3日	神戸市立王子スポーツセンター体育館（兵庫県）
中国・四国	高知県	4月28日	ふれあいツムかなぎ（島根県）
九州	佐賀県	4月14日	沖縄県総合運動公園体育館（沖縄県）

③日本車椅子バスケットボール選手権大会（東京）

実施日：平成24年5月2日～4日

実施場所：東京体育館（東京都渋谷区）

参加チーム：20チーム

その他：ポスター、パンフレット、報告書を作成（報告書発送3月4日完了）



④2012パラサイクリング選手権大会の開催

ロード大会

実施日：平成24年10月28日

実施場所：万場調整池（愛知県豊橋市）

参加者：14名（内パイロット2名）

トラック大会

実施日：平成24年11月17日

実施場所：日本サイクルスポーツセンター

（伊豆ペロドローム）

参加者：8名（内パイロット1名）

その他 プログラム、報告書を作成



⑤国際盲人マラソン大会

実施日：平成24年4月15日

実施場所：土浦市川口運動公園陸上競技場

参加者：男子107名、女子38名 計145名



⑥ロンドンパラリンピック競技大会日本選手団ユニフォーム経費

実施日：平成24年8月29日～9月9日

実施場所：イギリス・ロンドン

参加者：選手134名、役員121名 合計255名



(2) 成 果

①第12回全国障害者スポーツ大会（岐阜県）

「輝け はばたけ だれもが主役」をスローガンに、また、「心をひとつに 日本再生」を合い言葉に、大会を実施しました。

全国から67の選手団、約5,300人の選手、役員とともに競技役員・ボランティアをはじめとする関係者や多くの観客が参加して、開会式、閉会式及びすべての競技会を予定どおり実施することができ、大会に関わったすべての人々が「主役」として活躍した大会として全国の皆さまへ感動と元気を届けることができた。

3日間で観客を合わせた参加者は延べ約66,000人で、大会を通じたボランティアは5,789人だった。これは、当初の計画を上回る参加となった。

②第12回全国障害者スポーツ大会予選会

今年度12競技が、6～8ブロックにわかれ予選会を行った。毎年全国72会場以上で、予選会を行い、年々参加する地域の参加チームが増加している。第1回全国障害者スポーツ大会予選会には、各地区から合計275チームが参加しましたが、今回12回では、404チームが予選会に参加しました。これは1回目の約1.5倍です。このことから全国大会、及び予選会を継続することにより、地域の障がい者スポーツの普及振興に役立っていることがわかる。

③日本車椅子バスケットボール選手権大会（東京）

全国から予選を勝ち抜いた20チームが参加し初日から熱戦が繰り広げられた。また、40回記念として、決勝戦においては天皇皇后両陛下のご臨席を賜り盛大に開催することができた。入場者は3日間を通して5,000人の方々にお越しいただき観戦して頂いた。入場者は、間近で熱戦を観戦し、障がい者スポーツをより身近に感じる事ができた。

また、ロンドン2012パラリンピック競技大会の出場を控えた、男子日本代表チームの紹介もあった。

④2012パラサイクリング選手権大会の開催

国内で開催されるパラサイクリング競技（障がい者自転車）唯一の全国大会であり、国際パラリンピック委員会公認大会として、国際大会への足がかりとなっている。本大会で活躍した選手の多くがパラリンピックを代表とする国際大会で活躍している。特に、同年に開催されたロンドン2012パラリンピック競技大会では、自転車競技において、銅メダルを獲得することができた。

⑤国際盲人マラソン大会

本大会は国内最大規模の約27,000人がエントリーしている、かすみがうらマラソン大会と同時開催し、視覚障がい者が一般選手と分け隔てなく同じコースを走った。また、国際パラリンピック委員会公認コースで、国外から選手も参加した。

障がい者スポーツの普及の意味では、一般選手、ボランティア等、障がい者スポーツを身近に感じる事ができ、競技力向上では、国内で参加できる数少ない公認コースを走ることができ、また海外の選手との交流も得ることができた。それにより、ロンドン2012パラリンピック競技大会では、3名の選手が入賞を果たした。

⑥ロンドンパラリンピック競技大会日本選手団ユニフォーム経費

本大会で日本選手団は、金5個、銀5個、銅6個の合計16個のメダルを獲得することができた。特に、ゴールボール女子の金メダル獲得は、パラリンピック団体競技において金メダル獲得は日本初の快挙となった。ゴールボールの選手が表彰台で、オリンピックと同じユニフォームをきて金メダルをかけ、それが多くのメディアに取り上げられた。このことで、広く一般の関心を高めることができた。

6 業界等において今後予想される効果

①第12回全国障害者スポーツ大会（岐阜県）

開催県では障がい者スポーツの指導員、審判員等、関係者が増え、ボランティアとして大会に関わることにより、一般の人がより障がい者スポーツを身近に感じることができる。

また、参加する選手は本大会出場を目標にしており、パラリンピック等競技力の高い大会だけでなく本大会は、障がい者がスポーツを始めるきっかけ、続けるモチベーションとなる。

②第12回全国障害者スポーツ大会予選会

9競技12種目の団体競技予選会が全国各ブロック（6～8ブロック）において実施された。

予選会に参加する、各地域のチームも年々増加しており、また、予選会実施にあたり、各県障害者スポーツ協会、指導者協議会、地域の各競技団体との連携が深まり、スムーズな大会開催をすることができるようになる。

今後も継続し、すべての地域から、すべての競技にチームが出場することを目指す。

③日本車椅子バスケットボール選手権大会（東京）

本大会が国内最高峰の大会として継続実施することにより、選手、チームの目標となり、選手強化の重要な役割を果たす。

また車椅子バスケットボールは、一般競技とルールもほとんど同じで、初めて観戦しても応援しやすい。また、スピード、選手の動きの迫力で、見る人を魅了することができる。本大会を通して広く一般の人に、実際に身近で障がい者スポーツを体感してもらうことにより、障がい者スポーツの応援団を増やすことができる。

④2012パラサイクリング選手権大会の開催

ロンドン2012パラリンピック競技大会において、銅メダルを獲得ならびに自転車競技全3選手の入賞という結果を得られた。北京パラリンピックからクラス分けやルールの変更などがありかなり厳しい状況であったが、アトランタからの連続メダル獲得を継続できたのも本事業による普及・強化の成果である。

⑤国際盲人マラソン大会

国内で開催される、数少ない国際パラリンピック委員会公認大会で、本大会が継続開催されることにより、他の競技団体も国際大会の誘致や、公認申請を目指すようになる。

一般ランナーと一緒に走ることにより、伴走に興味を持つ一般ランナーが増える。

⑥ロンドンパラリンピック競技大会日本選手団ユニフォーム経費

オリンピックと同じユニフォームを着用し、多くのメディアに取り上げられたことにより、パラリンピック選手が注目された。その効果で、広く一般の関心を高めることができ、今後の障害者スポーツの振興につながる。

また、オリンピックとパラリンピックが比較され、パラリンピック選手のおかれている環境の差が大きな問題となった。このことにより、今後パラリンピックの選手、競技団体の環境の改善が進むことが考えられる。

7 本事業により作成した印刷物（研究報告書等）

③日本車椅子バスケットボール選手権大会（東京）

- 1)ポスター 1,500部
- 2)プログラム 3,000部
- 3)報告書 900部

④2012パラサイクリング選手権大会の開催

- 1)プログラム トラック 40部
ロード 20部